

遠野みらい創りカレッジ

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 地域拠点施設
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 建物外観

遠野みらい創りカレッジは、交流人口の拡大を図る拠点施設として、産官学民が連携し、地域の発展、産業の創出、人材育成などに結びつける活動を推進する施設であり、災害時の防災拠点としての機能も充実している。施設は2013年3月に閉校となった遠野市立土淵中学校の校舎をそのままお借りして、遠野みらい創りカレッジの校舎としている。

■施設概要

所在地 : 岩手県遠野市土淵町土淵 4地割-21-6

■施設種別 : 研修施設

交流人口の拡大を図る拠点施設
防災拠点

運営事業者: 一般社団法人遠野みらい創りカレッジ

構造規模 : 木造・地上3階

設備・諸室: 事務所, スタッフルーム, 会議室兼応接室
コワーキングスペース, テレワークセンター
研修室兼宿泊室, シャワールーム
みらい創りホール, 農事組合法人, 調理室
活動室, 資料閲覧室, 多目的ホール
サテライトオフィス, 作法室, 食育カフェ
体育館, グラウンド, 空き教室3部屋

■運営概要

中学校再編成後における学校施設等再生事業において2013年に遠野市内8校の中学校のうち5校が廃校となったためにその一校を利用して、富士フィルムグループの富士ゼロックス株式会社と岩手県遠野市は、旧遠野市立土淵中学校を拠点として、遠野市とその近隣における地域・産業の発展と人材育成に寄与することを目的に「遠野みらい創りカレッジ」を4月8日に開校した。富士ゼロックスと遠野市が協働してプログラムの構築・運営を担い、市やその近隣地域の住民と企業や団体、大学・学生などが連携し、対話や研修、グループワークなどを



写真2. 周辺状況 (Google マップより)

JR 釜石線 遠野駅下車。駅からタクシーで約10分。
遠野ICから一般道で約15分。
遠野は自動車移動が主体であり、駐車スペースに余裕がある。



写真3. コワーキングスペース兼テレワークセンター
遠野市に仕事をしにくる人や市民の制作の場所となっている。

コピー機を使いたくてくる人もいる。

参考文献

・遠野みらい創りカレッジ <http://tonocollege.org/>
(2018.10.7 参照)

・富士ゼロックス株式会社 <https://www.fujixerox.co.jp/> (2018.10.7 参照)

見学日時：2018.8.25

見学者：東京電機大学 建築・計画研究室

教授 山田あすか

小学2年 山田志栄

非常勤講師 古賀政好

学部4年 高橋亮哉

他14名



写真4. 市営体育施設

グラウンドと共に遠野市運営の体育施設となっている。
利用頻度としては週に3回ほどとなっている。

通して地域の発展、産業の創出、人材育成などに結びつける活動を推進する。

■建物について

建物は地上3階建て。

グラウンドと1Fの体育館は遠野市が体育施設として貸出を行う。

1Fでは体育館、音楽室、家庭科室、技術室、3部屋の空き教室がそれぞれ、市営の体育施設、みらい創りホール、料理教室、市場の会場や宿泊者が自炊するための調理室、農事組合法人遠野こがらせ農産の部屋、3つの空き教室は、カフェレストラン、コワーキングスペース、研修兼宿泊室に転用されている。

2Fでは美術室、理科室、図書室、職員室、更衣室、保健室、校長室、3部屋の空き教室がそれぞれ、活動室、資料閲覧室、多目的ホール、事務室、スタッフルーム、サテライトオフィス、応接室、3つの空き教室は、WSや会議室とし

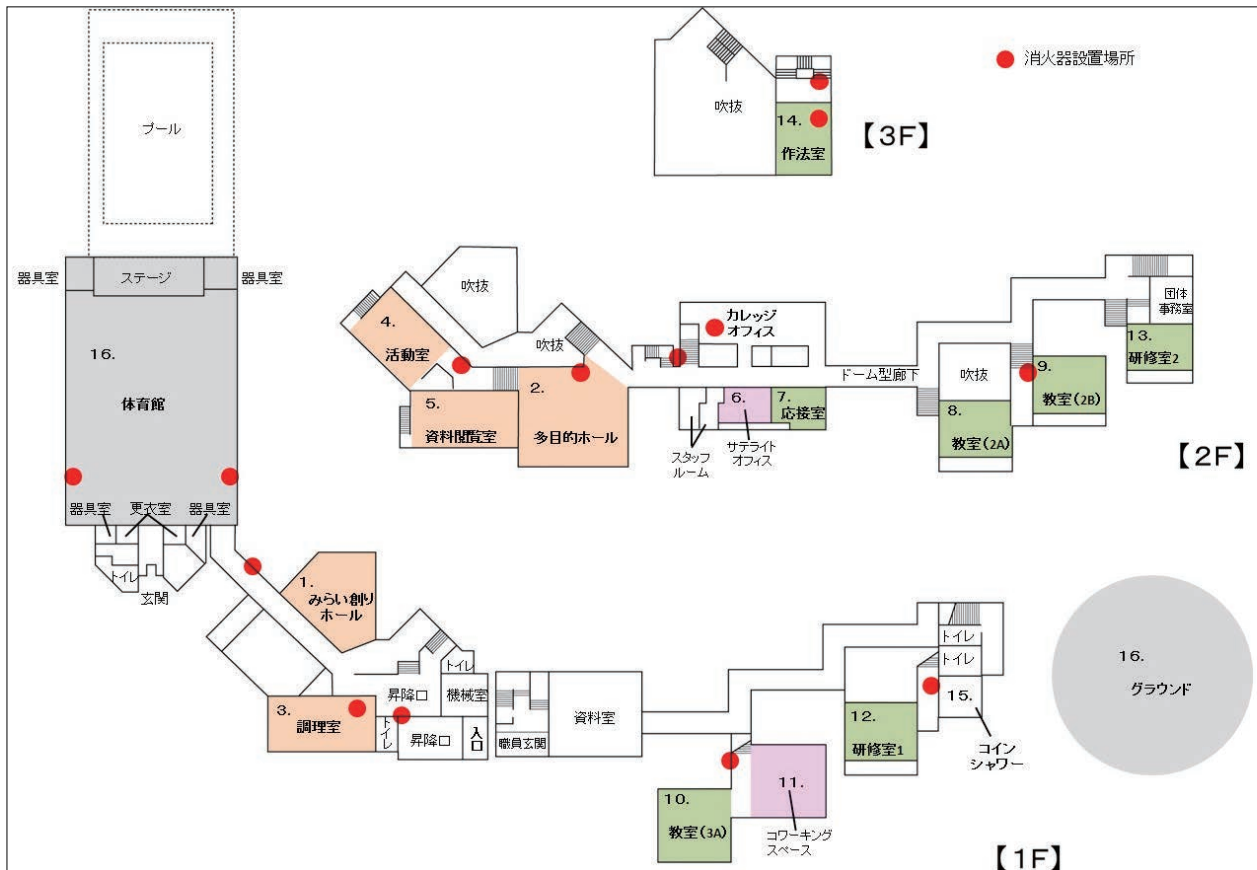


図1. 1～3F 施設間取り図

トイレ、網戸、エアコン、畳、シャワールームなどの細かい部分の改修は行っているが、ほぼそのままの状態が使われている。旧特別教室以外のすべての部屋にエアコンを設置はしたが、廊下は温度調節ができなかったり、雨漏り、壁のひび割れ等の転用ならではの問題は残る。

て開発中であり、もう1部屋は滞在型拠点として、残りの一部屋は1F同様、研修兼宿泊室となっている。3Fの一部屋は畳にカーペットを敷き、作法室となっている。

■改修に至った経緯について

遠野市は、内陸と沿岸の中間地点にあり双方に通じる道路網が整備され、古くから交通の要衝として「遠野物語」に代表される独自の文化が形成されてきた。東日本大震災の発生時には甚大な被害のあった沿岸地域の後方支援拠点として役割を果たしてきたが、市庁舎が全壊するなど自身もまた被災地であり、また震災により地域課題が加速化。少子化による中学校再編や空き校舎の活用など地域活性化のための取り組みが急務となっていた。

富士ゼロックス社では、地域と密着したCSR活動に力を入れており、震災から岩手県に拠点を置いた復興支援を展開する中で、より「顔の見える」復興支援に成果を挙げた遠野市に着目し、市に働きかけ、社員と遠野市地域住民との交流事業を行ってきた。そこで両者がこの活動を深化させ、空き校舎を活用した地域課題解決やみらい創りのための人材育成・情報発信事業を展開することを地域住民との対話を重ねながら検討を進め、平成26年4月8日協定運営による「遠野みらい創りカレッジ」の開校に至った。

■成功や変化について

行政ではなく民間企業である富士ゼロックス社が主導となってアナログなアプローチを続けて廃校舎の活用を行った。

利用者が増加するとともに市民中心のプログラムが増え、活動のパッケージ化を目指す。

小中学生との交流や首都圏大学、海外大学留学生、遠野の将来を担う高校生が参加する国際コミュニケーション能力の育成、大学生のフィールドワークなどが行われている。遠野みらい創りカレッジの活動により大学とのつながりが生まれ、中高生の視野が広がったり、民泊の客層が変わることによる民泊の魅力への注目、横断的取り組みによって様々な人が巻き込まれる変化が生まれた。



写真5. 研修兼宿泊室

元教室。最後の卒業生の黒板を消さずに残している。改修によって畳の部屋としたことで研修スペース兼宿泊スペースとなった。

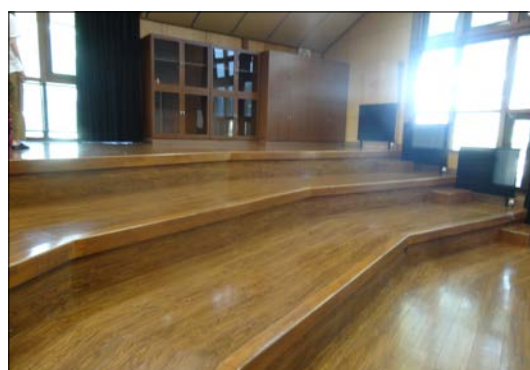


写真6. みらい創りホール

旧音楽室。教室同様、黒板に最後に書いたものを残している。

約100人収容可能で様々なイベントが行われる。



写真7. 多目的ホール

旧図書室。約80人収容可能。

廊下とつながっており、スペース利用者と宿泊者や運営者が顔を合わせる場所。